

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

御正忌報恩講のご案内

如来さまの大慈悲をあきらかにして、私たちに浄土往生の道を示して下さい。開山親鸞聖人の九十年のご苦労とご恩徳を讃え、仏恩報謝の心をよせあって、大切につとめさせていただく報恩講。浄土真宗では、もっとも大事なご法要です。お誘いあわせお参り下さい。

一月十四日(月) 昼一時半 夜七時
十五日(火) 昼一時半 夜七時
十六日(水) 昼一時半 夜十一時
(十六日は親鸞聖人のご命日。特に大切に勤めます。)

報恩講お斎のご案内

次の通り、お斎のご案内を申し上げます。

十五日	十四日	昼	夜
向山・久原・土手 中村・大竹・市・湯免 下中小野・辻並	豊原・平野・浅田・沢江上 ゲ・殿村・上東方 下東方・小島・町外	野波瀬東側 (一〜四班)	野波瀬西側 (五〜十三班)

- ※ 十六日は、お斎はありません。
- ※ 都合の悪い方は、指定以外の日にお参りされても構いません。

お斎の受付のおねがい

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当区域のお斎の日のお世話をお願いします。

年回忌表

2013年(平成二十五年) 昭和88年に当たります。

100 回忌	50 回忌	33 回忌	25 回忌	17 回忌	13 回忌	7 回忌	3 回忌	1 周年忌
大正3年 往生	昭和39年 往生	昭和56年 往生	昭和64年 往生	平成9年 往生	平成13年 往生	平成19年 往生	平成23年 往生	平成24年 往生
1914年 往生	1964年 往生	1981年 往生	1989年 往生	1997年 往生	2001年 往生	2007年 往生	2011年 往生	2012年 往生

御正忌報恩講とは

親鸞聖人が亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。親鸞聖人は七五〇年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを生きる力、そして「よりどころ」とした、たくさんの念仏者を生み育ててきました。

私たちの先輩方は、この御正忌という法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いことを聴聞されました。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣わしでもあったのです。

十五日には、夜の座の後に午後十一時の通夜法座もあります。(平成六年までは、十六日朝五時のお朝事まで、徹夜でお参りするお通夜を、極楽寺でも勤めていました。)毎年御命日には、記念写真を撮っています。ぜひ、お参り下さい。



2012年の16日御命日にお参りされた皆さん

お寺のお世話をして下さる、総代・世話人の皆さんです
よろしくお願ひします

総代長	木村慎治さん(野波瀬)		
副総代長	小林 明さん(豊原)	総代	山中重良さん(豊原)
総代	藤田平二さん(仙崎)	総代	宮崎忠彦さん(野波瀬)
会計	松野行利さん(野波瀬)	監査	野村昭一さん(上東方)
野波瀬西側	斉藤達男さん	市・湯免	名和田栄さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	竹林啓助さん
	宮崎忠彦さん	久原	藤村勇次さん
	黒瀬彰己さん	向山	木村重彦さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村一夫さん
	岩本 勉さん	下東方・小島	小林 昭さん
野波瀬東側	河村康昭さん	豊原	山中博道さん
	鼻野直行さん		重岡幸作さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	田村末夫さん		石村政一さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	松並唯夫さん	浅田・沢江・上ゲ・殿村	磯 昭正さん



今年の漢字は？

毎年恒例となりました、日本漢字能力検定協会が主催する、今年一年の世相を表す漢字一字は「金」

に選ばれました。ロンドン五輪の金メダルや、京都大学・山中教授のノーベル賞受賞など多くの「金字塔」が打ち立てられたこと、金環日食の観測もあり、また消費税や生活保護など金をめぐる問題が起こったことなども選定理由になったようです。

では、私が個人的に選ぶ「今年を表す漢字一字」はというと、やはり「忙」という字になりそうです。たくさんの方の役職をいただいたことでもあります、何より心せわしい一年だったと言った方が正しいでしょう。いつも、何かに追われているような年でした。でも、それは私だけではなく、世の中全体が「忙しさ」に覆われているのではないのでしょうか。

実は、そんな私の生き方をあらわすような言葉が『大無量寿経』というお経にあるのです。

「然るに世の人、薄俗にして共に不急の事を諍う」

「世の人」とは世の中に生きる私たち、「薄俗」とは軽く薄っぺらということ。そして「不急の事」とは、急がなくてもいいことという意味だそうです。この世の中に生きる私たちは、急がなくてもいいことを我先に争いながら、ふと気がつけば心を震わせて感動することも、涙を流して悲しむことも、出遇いも、情熱も、生きていくという手ごたえもない「軽く薄っぺらな人生」を過ごしているのではないのかという指摘です。『大無量寿経』という経典は、二千年以上も前に書かれたものですが、まさしく現代社会に生きる私の有りようというものをピタリと言い当てているようで、ドキッとさせられました。考えてみれば、「忙」という字はりっしん偏に亡くと書きますから、「心を亡くす」と読めます。何か大切なものを見失いながら、心貧しい一年を過ごしてきたのかもしれない。

来年こそは、大切なことを見失わず、心豊かな生き方をしたいものだと思うのですが、さて一体どうなることやら。しかし、そんな姿を知らされているだけでも、ものの見方、考え方、出遇い方は、大きく違ってくるような気がします。 **禿**

※「毎日、お参りしましょう！キャンペーン」は、お休みします。

② お香をひとつまみ、
香炉へ入れます。



③ 合掌、お念仏を
称え、礼拝します。



こうごう

香盒のフタは、かけて置きます

お香の入れものを「香盒」といいますが、
フタは、かけて置いて下さい。



最初の方がフタを開け、
最後の方が閉めて下さ
い。

④ 最後にもう一度、
軽く一礼をします。

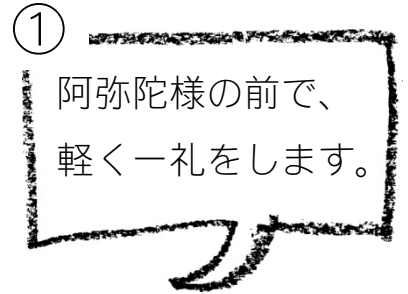


極楽寺だよりを送りませんか

極楽寺では、都会に出られているご門徒の方や家族の方々に有縁の方々に、極楽寺だよりをお送りしています。都会の子どもさんやお孫さんに、送られてはどうでしょう。連絡先を教えてください、お寺から直接、お送りいたします。



お焼香の作法



お香は、いただきません！

X

ブーッ！間違いです



火種は、炭か線香で

簡易の炭が、仏具屋さん売ってあります。
線香で、代用されても結構です。

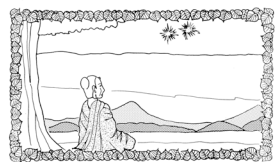
※ 線香は立てずに、折って寝かせて下さい。

ポルトップ収集 ありがとうございます

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。

今年は **24.05kg**
(約空き缶4,810個分)

極楽寺ホームページ 《[極楽寺.com](http://gokurakuji.com)》で検索して下さい



極楽寺揭示伝道
けいじてんどう



11月の言葉

本当に賢い人は

自分の愚かさを

知る人です

極楽寺揭示伝道

九州大谷短期大学で教鞭をとられていた宮城顛先生は、チエコの作家ミラン・クンデラの

「人々の愚かさというものは、あらゆるものについて

答えをもっているということからくるのだと、自分は思う。」

という言葉をおられました。

普通は逆のように考えますね。答えをもっていない者が愚かな者であり、だからこそ勉強して、答えを身につけようとするのです。考えてみれば、インターネットの世界では「オレはこれだけ知っている。みんな、わかっていないバカばかりだ。」という書き込みが、かなりを占めています。

ところがクンデラは、答えを持っているところに人間としての愚かさがあると指摘するのです。答えを持つとき私たちは、あらゆる事柄をわかったことにしてしまう。そして勝手に決めつけた答えを物差しにして、まわりの事柄すべて無責任に判定し、評価してしまうのだと。

また宮城先生は、学生に対していつも次のようなことを願われていたそうです。

「私たちの感じ方、私たちの体験は常に一面的であり、一部分でしかないということを決して忘れないということ。自分が知っている量がどれだけ増えても、それは決して人間を成長させない。一番大事なことは、自分には知らないことがたくさんあるということを知ることです。」

そして自分と違う世界があるということ、自分と違う感じ方をもって生きている人がいるということを決して忘れないということ。そういう人たちだけが、人の言葉に耳を傾け、人にまなざしを送ることを忘れないでしょう。」

わかっていないという自覚があるからこそ、謙虚に問い、たずね、聞くという姿勢が生まれるのでしょう。逆に、わかっていないという姿勢は、問いたずねることから、もつとも遠い姿勢だと指摘されます。

雨が降ると、その水は山の頂に留まるのではなく、必ず低いところに流れ込みます。それと同じように、頭を下げ、自分を低くして、良い師を敬うならば、教えの功德はその人に入り込む。しかし、もし人がおごり高ぶって自分を高くするならば、法の水は入らない。龍樹菩薩の『大智度論』に、こんな譬えが

あります。

本当に賢い人とは、知識の量を誇る人ではないのでしよう。自らの愚かさを知る人こそが、大きな世界と出遇う喜びを知るのだと教えられます。深く反省しつつ、受け止めたいと思います。 ■



12月の言葉

除夜の鐘をつく回数が百八つといわれるのは、私たちの煩惱や苦を除くためだと言われています。しかしいくらついても、私たちの煩惱は一向に減る気配はないようです。もし、鐘をつくことで煩惱がなくなったつもりになってもなっているとしたら、これはただ迷いを深めるだけの逆効果でしかありません。

ある保育所では、一つの問題を抱えていました。子どもを迎えにくる親が、遅れることがあるのです。親が来るまで保育士が一人、居残らなくてはなりません。この問題を解決するために、保育園では遅刻する親に対して「罰金」をとるこ

とにしました。すると予想に反して、親が遅れるケースが増えたのです。以前であれば、遅刻する親は後ろめたさを感じていたのが、お金を払うことでそれがサービスの「料金」へと感覚が変わり、後ろめたさや痛みを感じなくなったからというのがその理由だそうです。

「罰金」には、「それは、やめて欲しい」という思いが込められています。しかし、それを「料金」として扱うことは、その思いを軽々しく扱うことになります。「お金を払うことで自分の行為は正当化される」という考えは、「お金さえもらえればいい」という価値観を持つ人にとっては有効かもしれませんが、そうではない人にとっては迷惑で、傲慢な態度にしか見えないことでしょう。痛みがなくなったとき、私たちは立ち止まることをしなくなります。正当化する理屈があることで後ろめたさがなくなれば、自らを見つめることも、相手を思いやることもしなくなるのでしよう。

除夜の鐘の音を聞きながら、煩惱を抱えた自分の姿と向き合ってみる。そんな姿は、煩惱を消したつもりで正当化するよりも、もっと心豊かな生き方が生まれてくるのではないのでしょうか。 ■

除夜の鐘つきのご案内

つきはじめ
11時50分



毎年、極楽寺では、おでんを用意して、大晦日に除夜の鐘つきを致します。

熱々のおでんをほおぼりながら、新しい年が明けるのを共に味わいましょう。懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。

打ち始め十一時五十分より。終了後、初参拝のお勤めをします。

年越しは、極楽寺で

元旦会 1月1日 朝10時から



時間は約三十分。家族全員でお参りされる家もあります。皆さんお参りいたしましょう。わが家のお仏壇ぶつだんも打敷うちしきをかけて飾り、新年むかを迎えましょう。

ご法座には、門徒式章をつけてお参りしましょう

二〇一三年 極楽寺のご法座

- ◆ 一月一日 朝十時 (毎年) 元旦会
- ◆ 一月十四日 (毎年) 御正忌報恩講
- ◆ 四月十七日 (毎年) 春の永代経法要
講師 福岡了専寺住職 細川義朋師
- ◆ 五月二十一日 (毎年) 清光仏教婦人会の降誕会
- ◆ 六月十日 (毎年) 夏法座
講師 秋芳町明巖寺住職 中島昭念師
- ◆ 八月十四日 (毎年) 盆法会
- ◆ 九月四日 (毎年) 三隅地区親鸞聖人鑽仰法座 (極楽寺引受)
講師 大阪相愛大学教授 釈 徹宗師
- ◆ 九月二十三日 (毎年) 納骨堂追悼法要
- ◆ 十一月十三日 (毎年) 秋の永代経法要
講師 益田市西楽寺住職 川本義昭師
- ◆ 十二月十八日 (毎年) 清光仏教婦人会の報恩講
- ◆ 十二月三十一日 (毎年) 除夜の鐘つき 初礼拝